短歌を味わう

A

白鳥はかなしからずや空の青海のあを（オ）にも染まずただよふ（ウ）

若山牧水（わかやまぼくすい）

B

※不来方（こずかた）のお城の草に寝（ね）ころびて
空に吸は（ワ）れし
十五の心

石川啄木（いしかわたくぼく）

C

のぼり坂のペダル踏（ふ）みつつ子は叫（さけ）ぶ
「まっすぐ?」、そうだ、どんどんのぼれ

佐佐木幸綱（ささきゆきつな）

D

ぽぽぽぽと秋の雲浮（う）き子供らはどこか遠くへ遊びに行けり

河野裕子（かわのゆうこ）

E

観覧車回れよ回れ想（おも）ひ（イ）出は君には一日（ひとひ）我には一生（ひとよ）

栗木京子（くりききょうこ）

F

一本の道をゆくとき風は割れ僕（ぼく）の背中で元（もと）に戻った

木下龍也（きのしたたつや）

※不来方…岩手県盛岡の古称。

確認テスト 短歌を読んで、問いに答えなさい。

(1) **A**の歌は何句切れか。適当なものを選びなさい。

ア 初句切れ　**イ** 二句切れ　**ウ** 三句切れ
エ 四句切れ　**オ** 句切れなし

〔　　〕

(2) **E**の歌で用いられている表現技法として適当なものを選びなさい。

ア 倒置（とうち）　**イ** 対句（ついく）　**ウ** 直喩（ちょくゆ）

〔　　〕

(3) **A**〜**F**の中で、字余りのものを選び、記号で答えなさい。

〔　　〕

(4) **A**〜**F**の中で、体言止めが用いられているものを二つ選び、記号で答えなさい。

〔　　・　　〕

(5) 次の鑑賞（かんしょう）文に当てはまるものをそれぞれ選び、**A**〜**F**の記号で答えなさい。

① 相手にとっては何気ない時間も、相手を恋（こい）しく思う自分にとってはかけがえのないものと感じている。
② 思春期に感じた気持ちを思い起こし、当時の少年らしい心を、懐（なつ）かしく感じている。
③ 周囲の色に染まることなくただよう孤高（ここう）な鳥の姿に、自らを重ね合わせている。
④ 懸命（けんめい）に進んでいく子どもの姿に、まっすぐに成長していってほしいとエールを送っている。

①〔　　〕②〔　　〕③〔　　〕④〔　　〕